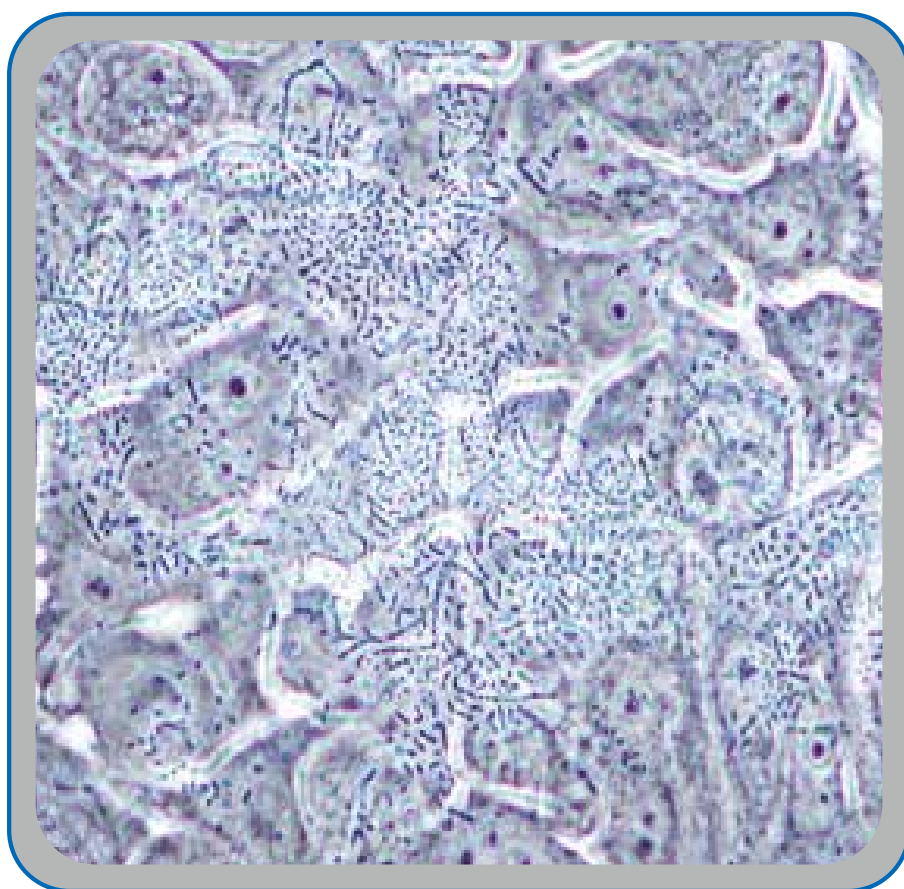


第32号

さくらしま

2018



鹿児島大学大学院
耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室

同門会誌

〔表紙写真の説明〕

肺炎球菌が咽頭上皮細胞へ接着している様子

目

次

巻頭言	1
会長の挨拶	2
I. 同門会員業績・学会発表	4
II. 教室行事	
1. 共催の講演会	5
2. 第20回さくらじまフォーラム	6
3. 第11回耳の日ならびにアレルギー一週間公開講座	6
III. 同門会報告	8
IV. 地域医療報告	
学校保健（統計報告）	9
V. 特殊外来通信	
難聴・耳鳴・めまい外来	11
VI. 病理集計	12
VII. 手術実績	13
VIII. 各種科学研究費	14
IX. 業 績	
1. 原 著	15
2. 総 説	16
3. 国内学会発表	17
4. 国際学会発表	22
X. 医局通信	
1. 新入局員紹介	23
2. 医局人事	24

3. 学会報告

①第35回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会 ……	25
②第118回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会 …	25
③第41回日本頭頸部癌学会 ……………	26
④第66回日本アレルギー学会学術大会 ……………	26
⑤第79回耳鼻咽喉科臨床学会総会・学術講演会 …	27
⑥第32回九州連合地方部会学術講演会 ……………	27
⑦第24回 マクロライド新作用研究会 ……………	28
⑧第30回日本口腔・咽頭科学会総会・学術講演会 …	28
⑨第5回日本耳鼻咽喉科感染症・エアロゾル学会総会・学術講演会 …	29
⑩第69回日本気管食道科学会総会・学術講演会 …	30
⑪第28回日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会 …	30

5. 関連病院便り

①鹿児島医療センター便り ……………	32
②鹿児島市立病院便り ……………	34
③藤元総合病院便り ……………	39
④鹿児島生協病院便り ……………	40
⑤天辰病院便り ……………	41

XI. 関連病院と診療日案内 ……………	42
-----------------------------	-----------

XII. 海外同門会名簿 ……………	45
---------------------------	-----------

XIII. 自治医大研修生 ……………	49
----------------------------	-----------

同門会会則 ……………	51
--------------------	-----------

編集後記……………	53
------------------	-----------

巻 頭 言

黒 野 祐 一

今年2月に韓国の平昌で開催された冬季オリンピックで、日本は過去最多のメダルを獲得し、惜しくもメダルを取れなかった選手からも多くの感動と勇気をもたらした。そして、どの選手も試合後に、まず彼らの活躍を支えてくれた人々への感謝の言葉を述べているその姿を見て、彼らは自分のためではなく、その人々のために、競技に臨んでいることを改めて知らされた。だからこそ、自らを極限まで鍛えあげることができたし、我々がこれほどに感動するのだと理解もできた。

医師も同じである。もちろん医療は患者のために行うものであるが、我々が診療を終えたのちも、また休日にも医学を学ぼうとするのは、自分のためではなく、やはり患者を助けたいと願うからこそ一生懸命になれるのだと思う。そうでなければ日々進化する学問を求め、さらなる高みを目指す意欲も勇気もわいてこないであろう。

今年の第119回日本耳鼻咽喉科学会で宿題報告を担当させていただくことになり、一昨年の11月から準備を始めた。これまでの研究業績だけではとても宿題報告のレベルには到達できないので、新たな知見を得るため、研究を追加するとともに毎週リサーチミーティングを開催した。なぜそんなに頻回にミーティングをする必要があるのかと、訝しく思った教室員がいたかもしれないが、決して立派な発表をしたいという利己的な考えからではない。皆で討論し共に考えることで論理的な思考力を身に付けてほしいという願いから、それを強行した。案の定、これまでの個々の研究に一連のストーリーを持たせようとしても、全くチグハグで脈絡がない。それを一つ一つ指摘し話し合うなかで、それが次第に癒合し、系統的な展開が見えてきた。臨床医が研究をして何の意味があるのかと、学生や研修医からよく質問される。確かに我々の研究は、世の中の役に立つことは無いかもしれない。しかし、実験で得られた結果を吟味し討論することで、論理的な思考力が初めて鍛えられ、それこそが臨床で最も必要とされる力であると信じている。そしてそれは、自分のためではなく、患者のために医師として必須の力でもある。

冬季オリンピックでは羽生選手の演技もすばらしかったが、調和のとれたフォームと隊列で金メダルを勝ち取った女子チームパシュートの滑りは圧巻であった。今回の宿題報告も、私情を捨て教室の発展のために頑張ってくれた医局員のチーム力によって成し得たものであり、多大なご支援をいただいた同門会および地方部会の先生方へは、この感動と感謝をお伝えすることで、ご恩返しとさせていただきたい。今年から、松崎尚寛先生がチームの一員に加わった。教室の団結力をさらに強固にし、彼を立派な耳鼻咽喉科医に育成すべく、頑張っていきたい。

内憂外患

山 本 誠

今年の1月はとても寒くて診療やゴルフにユニクロのヒートテック下着を重宝した。

また、県民待望の「西郷どん」が放送開始となり、鹿児島県の観光に貢献し、大きな経済効果をもたらすだろう。2月は平昌で冬季オリンピック・パラリンピックが開催された。選手の皆さんのすばらしい活躍で、メダルの獲得数も過去最高となり、日本中に感動と喜びが満ち、希望と勇気を与えてくれた。1月・2月が寒かったので、昨年より1週間早く3月17日に桜の開花宣言がなされ、3月29日には満開となり、晴天の日も続き花見や花見ゴルフが楽しめそうです。

ところで世間に目を転ずれば日本は内憂外患の直中にある。アメリカのトランプ大統領は「米国第一」を前面に出し、ロシアのプーチン大統領は、大統領選に圧勝して通算4期目の2024年まで、さらに中国の習近平氏は憲法改正を行い、終身の国家主席を可能として、時を同じくして長期の強権支配を固めた。習氏は中国主導の国際秩序構築への野心を隠さず「中国の発展を人類の幸福につなげたい。世界の統治システムの変革と建設に積極的に関与する」と大国外交を掲げ、現代版シルクロード経済圏構想「一带一路」を通じ影響力の拡大を図っており、又軍事力の増強を行い、南シナ海の領有権を主張して「牛の舌」と呼ばれる地域に人工島造成を行い、軍事基地化を行っている。

ロシアも2014年にウクライナ南部クリミア半島編入を行い、欧米との関係は「新冷戦」と指摘されるほど冷却化し、ロシアが介入する地域紛争はウクライナからシリアに拡大し経済制裁、サイバー攻撃、メディアの情報操作など非軍事分野でも欧米とロシアの対立は激化している。トランプ大統領は「ロシアゲート」疑惑の渦中、重要ポストはうまらず、高官の首のすげかえを行っており大統領としての資質を問われる中、中間選挙を考慮して鉄鋼やアルミニウムの輸入制限を打ち出し、特に中国との貿易戦争が生じる可能性が高い。国際秩序の守り神であるはずの米国が自国優先主義へと大きく舵をきったために民主主義と自由経済は試練のときを迎えた。また北朝鮮問題も予断を許さない。4月には韓国と5月には米国との会談が予定されているが、この4半世紀は北朝鮮にだまされた歴史があり、金正恩委員長が核を手放すとは思えないし、手放さねば米国との和解は成立せず武力衝突の可能性もある。

一方、内憂として安倍政権は森友問題で民主主義を揺るがしかねない公文書の書き換えが発覚した。安倍氏の自民党党首3選に黄信号がとまり国会は空転しており、外交で難問が山積みする中、適確な内政や外交は望むべきもない。世界の景気は不安定さを増し、円高と株安で日本の景気も悪化すると予想される。社会保障審議会で示された次期

改定の「基準方針」では超高齢化社会を理由に国民には一層の「自助努力」と負担増を求め、医療提供体制には一層の抑制と給付削減を促すものとなっており、診療報酬が上がらないために職員の給与も上げられない状態です。日本の人口は21世紀末には5000万人以下になると予想され、世界における経済規模はますます縮小する。今後は経済の質を高め、国民の幸福度を高めることが大事と思われる。社会保障費を削って国家財政を健全化するよりも、社会保障費を殖やした方が財政は潤うという説があるように、国民が安心して、安全に暮していけるように衣食住を保障し、ゆりかごから墓場まで医療を無償で提供する体制を整える。そうすれば国内消費は拡大し、経済力は向上する。その為の方策を国民と供に熟考し、100年の計を持って日本国の運営ができる政治家の出現が望まれる。日本も世界も大きく変わろうとしていく中、無病息災でなく多病息災で「転ぶな、風邪を引くな、義理を欠け」だけでなく大いに笑い、おいしいものを食べ、ゴルフをし、完璧を求めずテゲテゲに細く長くではなく、太く長く生きて世界がどうなっていくのか観てみたい。

今年には医局においては多忙な年となります。5月には宿題報告があり、11月には専門医講習会の主幹校となっています。来年の日耳鼻総会の主催校でもあり、その為の準備もしなければならぬ。毎年入局者があって頼もしい限りですが、医局の先生方は健康に留意しながら頑張ってください。6月16日は地方部会総会と黒野教授就任20周年の祝賀会が行なわれます。この会では日耳鼻総会に出席できなかった先生方のために宿題報告の講演も予定されておりますので多数の先生方の御出席をお願いします。宿題報告に際して多額の寄付金をいただきありがとうございました。出費多用の折ですが来年の総会主催のために再度の寄付金をお願い申し上げます。

せんだい耳鼻咽喉科 内 菌 明 裕

<原著>

門田吉弘, 枳尾 巧, 古賀泰裕, 柴田瑠美子, 内菌明裕: 1-ケストースの通年性アレルギー性鼻炎改善効果. アレルギーの臨床37: 54-59, 2017.

内菌明裕: 頰椎変形を伴う頭頸部痛に対する漢方療法の有用性について. 痛みと漢方27: 77-81, 2017.

<解説>

内菌明裕: 耳痛, 顔面痛, 咽頭痛に対する漢方治療. ペインクリニック38: s313-s320, 2017.

内菌明裕: 肺炎球菌迅速診断キット ラピラン®肺炎球菌 HS (中耳炎・副鼻腔炎): 耳鼻咽喉科・頭頸部外科89: 436, 2017.

<学会・講演>

第24回 日本東洋医学会鹿児島県地方部会 平成29年2月19日

鹿児島大学医学部第4講義室

テーマ別研究会「今の子どもたちに漢方ができること」耳鼻咽喉科的立場から

第33回 日本耳鼻咽喉科漢方研究会 学術集会 平成29年10月28日 東京

「突発性難聴・顔面麻痺に対する加味八仙湯方意の有用性について」

平成30年初頭に還暦を迎えました。開業して24年、去年は体調もあまり思わしくなく、出張をなるべく制限しました。数年前から取り組んでいる栄養療法を自分の身を以て実践している昨今です。そんな折、昨年105才で逝去された日野原重明先生が、最後の本の中で「100歳を超えた今、『ああ、今まで探求してきたことはほんの一部であり、真の意味では、僕はまだまだ自分のことをまったく理解できていないのだな』と心から感じるようになりました。80歳の頃の自分がかわいかったなとさえ思います。」と書いておられたのを読んで、驚愕の思いでした。漢方の世界では、「50, 60は、はなたれ坊主。70で一人前」などと言われます。まだ何もわかっていない。そんな思いを新たにしております。

1. 共催の講演会

1. 第21回南九州上気道感染症臨床懇話会 平成29年5月11日

パネルディスカッション

「扁桃周囲膿瘍を考える」

牛飼 雅人 先生（うしかい耳鼻咽喉科クリニック 院長）

川島 雅樹 先生（鹿児島大学病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科）

大堀純一郎 先生（鹿児島大学病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科）

上野 員義 先生（うへの耳鼻咽喉科クリニック 院長）

特別講演：「難治性中耳炎の治療戦略」

和歌山県立医科大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 教授 保富 宗城 先生

2. 第42回日耳鼻鹿児島県地方部会総会ならびに学術集会 平成29年6月10日

一般演題 「当科における鼻出血症例の臨床的検討」

久徳 貴之（鹿児島大学病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学）

「当科で経験したウイルス性急性咽喉頭炎例」

原田みずえ（鹿児島大学病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学）

「当院で経験した第一鰓裂嚢胞および瘻孔例」

積山 幸祐（鹿児島生協病院 耳鼻咽喉科）

「急性扁桃炎を合併した石灰沈着性頸長筋腱炎の1例」

高木 実（鹿児島市立病院 耳鼻咽喉科）

「口蓋腫瘍手術に対するポリグリコール酸シートとフィブリン糊使用に

関する術後出血の検討」

吉福孝介，西元謙吾，松崎 勉（鹿児島医療センター 耳鼻咽喉科）

共通講習医療倫理

「医療倫理の基礎と実践

－倫理的推論（ethical reasoning）のスキルを中心に－」

宮崎大学大学院医学獣医学総合研究科

生命倫理コーディネーター高度職業人養成コース

教授 板井 孝壱郎 先生

3. 第112回鹿児島県耳鼻咽喉科学術集会 平成30年1月18日
耳鼻咽喉科領域講習：「アレルギー性鼻炎の治療と展望」
秋田大学大学院医学系研究科 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 教授 山田 武千代 先生
4. 第113回鹿児島県耳鼻咽喉科学術集会 平成30年2月1日
耳鼻咽喉科領域講習：「耳鼻咽喉科免疫関連疾患のパラダイムシフト
～鼻アレルギーを中心に～」
東北医科薬科大学 耳鼻咽喉科 教授 太田 伸男 先生

2. 第20回さくらじまフォーラム

本フォーラムは、平成29年12月14日にサンロイヤルホテルで開催された。一般演題として、「当院で経験した鼻腔腫瘍例」を鹿児島生協病院耳鼻咽喉科の積山幸祐先生に、「外耳道異物の2症例」を鹿児島医療センターの耳鼻咽喉科の吉福孝介先生に、「咽頭痛、白血球減少、咽頭粘膜疹を認め、ウイルス性咽頭炎を疑われた症例」を鹿児島市立病院耳鼻咽喉科の林多聞先生に発表して頂いた。いずれの発表も日常診療における pearls と pitfalls について学び、考えさせられる症例で、興味深く拝聴した。領域講習では、黒野祐一教授が「扁桃の免疫学的考察」と題して講演された。来たる日本耳鼻咽喉科学会総会における宿題報告に向けた研究結果がまとめられており、教室員が皆の研究結果を確認、復習する良い機会となった。また、教室で現在行っている研究を関連病院の先生方や実地医家の先生方にお伝えする機会にもなった。本フォーラムは、日常臨床で診断や治療に苦慮した症例について多施設の先生方と遠慮なく意見交換できる貴重な場であり、今後の更なる発展を願う。

(文責：川島雅樹)

3. 第11回耳の日ならびにアレルギー週間公開講座 報告

日時：平成30年3月3日(土) 13:00～14:10

場所：鹿児島市勤労者交流センター

講演内容

1) 上手な補聴器の選びかた

地村友宏先生(鹿児島大学耳鼻咽喉科)

2) めまいにどう対処する？

宮下圭一先生（鹿児島大学耳鼻咽喉科）

3) アレルギー性鼻炎に対する舌下免疫療法

井内寛之先生（鹿児島大学耳鼻咽喉科）

開催後のアンケート結果

参加人数32名 回収数 29枚

30代 2名 40代 1名 50代 2名
60代 7名 70代 13名 80代 6名 (無回答 1名)
女性 12名 男性 11名 (無回答 6名)

1. どのようにして、今回の講座について知りましたか。

新聞 4名 病院内のポスター 4名 友人・知人からの紹介 1名
案内のハガキ 19名 その他（リビングかごしま 1名）

2. どの講演を目的に受講しましたか。※重複回答あり

補聴器 15名 めまい 12名 アレルギー性鼻炎 15名

3. 講演を聴こうと思ったきっかけは？※重複回答あり

聞こえに不自由を感じているから 6名 自分の健康管理 21名
家族の病気を心配して 8名
その他（自分の仕事への勉強のため、知識を深めるため）

4. 講演内容はいかがでしたか。

わかりやすかった 28名 ややわかりにくい 1名 無回答 3名

5. これまでに参加されたことはありますか？

はじめて 9名 2回目 4名 3回目以上 16名

（文責：宮之原郁代）

本年の鹿児島大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室同門会は、平成30年1月8日に城山観光ホテルで開催された。特別講演として鹿児島大学病院 医療環境安全部・感染制御部門 部門長の川村英樹先生に「薬剤耐性対策を踏まえた感染制御の実践」と題して講演いただいた。2016年に閣議決定された薬剤耐性（AMR）アクションプランとも非常に関連の深い、日常診療における抗菌薬の使用について詳細にご講演いただき、大変勉強になった。薬剤耐性菌を減らすためにも、当科のメインテーマである粘膜免疫ワクチンの開発は、今後さらに重要性を増してくるであろう。今後も鹿児島大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室とその同門にて、我々の研究あらためて認識する良い機会となった。

また本年は、新入医局員3名に加え、田淵みな子先生の4名を同門会に迎え入れることが出来た。New face を同門会で紹介できることは非常に喜ばしいことであり、今後も同門会のメンバーが増えていくことを期待する。 (文責：大堀純一郎)



鹿児島大学大学院耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室同門会 平成30年1月8日 於：城山観光ホテル

1. 学校保健（統計報告）

平成29年4月から6月にかけて、当科において鹿児島県下の以下の耳鼻咽喉科学校検診を行った。

【対象地域】

鹿児島市，阿久根市，垂水市，西之表市，屋久島町，松山地区（志布志市），財部地域（曾於市），大崎町，輝北地区（鹿屋市）

【受診者数】

小学生 3,865名，中学生 1,822名

【対象疾患】

耳垢塞栓，滲出性中耳炎，慢性中耳炎，鼻中隔湾曲症，鼻アレルギー，慢性鼻炎，慢性副鼻腔炎，慢性扁桃炎，扁桃肥大の9疾患

【結果】

疾患別有病率は，ここ数年の傾向どおり鼻アレルギーが圧倒的に多く，耳垢塞栓，慢性副鼻腔炎の順であった（図1）。学年別耳疾患有病率では低学年で耳垢塞栓が多かった（図2）。学年別鼻疾患有病率では，学年を通して鼻アレルギーの有病率が10%を超えていて，慢性副鼻腔炎は低学年ほど多い傾向を示した（図3）。学年別扁桃疾患有病率は，一定の傾向はみられなかった（図4）。

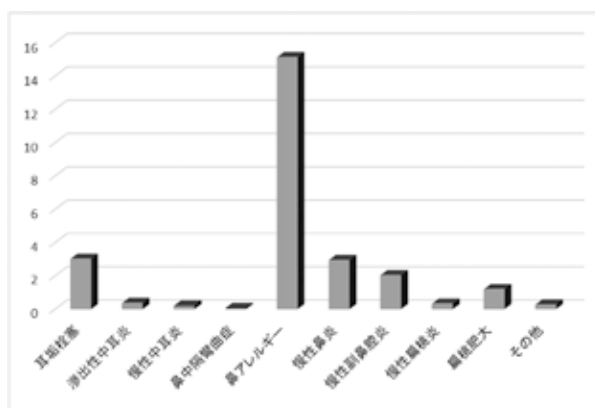


図1. 疾患別有病率 (%)

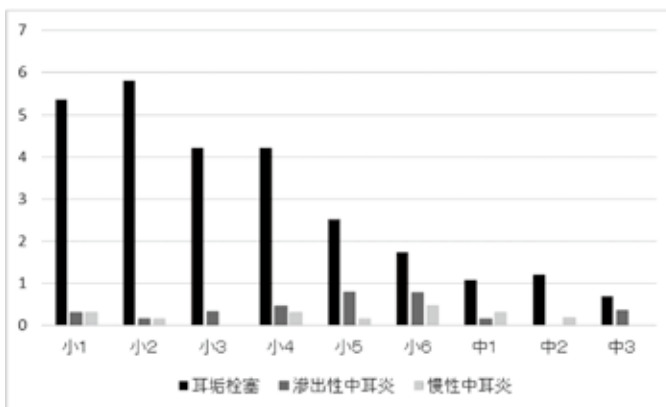


図2. 学年別耳疾患有病率 (%)

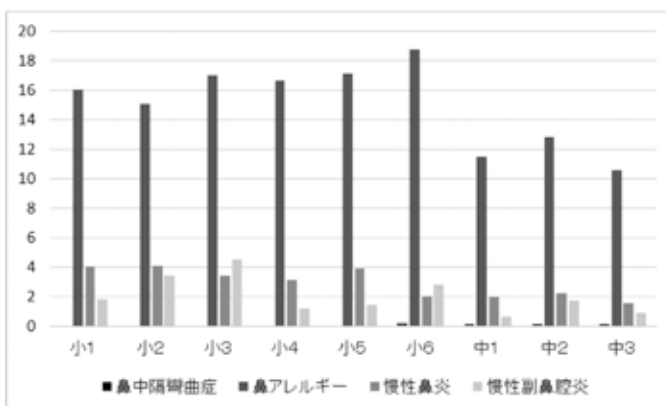


図3. 学年別鼻疾患有病率 (%)

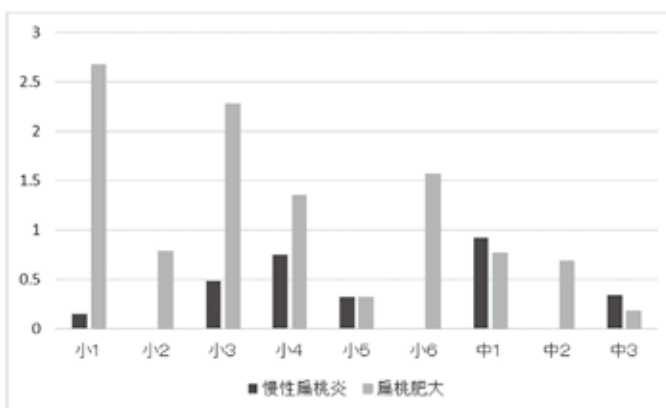


図4. 学年別扁桃疾患有病率 (%)

難聴・耳鳴・めまい外来

宮之原 郁 代

いつも貴重な症例をご紹介頂きありがとうございます。

例年に引き続き、小児・成人難聴の精査、難聴の遺伝子診断、人工内耳候補者選定、術後の（リ）ハビリテーション、補聴器フィッティング、TRT療法、めまいの精査・リハビリなどを中心に診療しております。

小児難聴に関しては、ハイリスク症例の難聴精査の依頼と、新スク後の精査目的で来院する患者さんの割合がほぼ同じで、あわせて約20～30例でした。

成人難聴の症例は、引き続きコンスタントにご紹介いただいています。聴覚検査はもとより、原因検索としてCT/MRIによる画像診断をあわせておこない、遺伝学的検査に関しては、ご本人の意向をお聞きし、遺伝カウンセリングを行ったのち行っております。平成29年度より厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等政策研究事業（難治性疾患政策研究事業）「難治性聴覚障害に関する調査研究班（研究代表者 宇佐美真一）」に研究協力者として参加し、一昨年に新規に指定難病となった「若年発症型両側性感音難聴」, 「アッシャー症候群」, 「ミトコンドリア難聴」の3疾患を中心に疫学研究を進めています。つきましては、これまで以上に患者様のご紹介につき高配頂けましたら幸いに存じます。

めまいの症例に関しては、ほとんどが慢性疾患であり、なかなか解決できない症例も多いと思いますが、精査ののちは前検カンファレンスを経て、情報提供とともに紹介医へお返ししますので、引き続き連携をよろしく願います。補聴器相談については、補聴器外来でフィッティングされる例と補聴器外来を経ずに販売店への紹介を希望される例とあり、どちらも増加傾向でした。

表1. 検査件数

	ABR	補聴器 フィッティング	耳鳴外来 (TRT療法)	遺伝学的検査 (先天性難聴)	前庭機能検査
2016年	78	17	13	12	92
2017年	73	29	13	5	42

VI. 病理集計

病理集計

2017.4月～2018.1月

	件数
入院	305
外来	267
他院（対診）	17
総施行件数	589

部位	悪性	件	良性	件
外耳	SCC	3	Cholesteatoma	2
鼻腔	SCC	8	Inverted papilloma	4
	Malignant melanoma	2	Solitary fibrous tumor	1
	Adenocarcinoma	2	Pleomorphic adenoma	1
	Extranodal NK/Tcell lymphoma,nasal type	1		
	Malignant lymphoma(DLBCL)	1		
	Olfactoryneuroblastoma	1		
前頭洞	SCC	1		
篩骨洞	SCC	3	Sinonasal papilloma	1
上顎洞	SCC	1	Multiple myeloma	1
眼窩	SCC	2		
上顎	SCC	1		
舌	SCC	11	Squamous cell papilloma	1
	Spindle cell tumor	1		
口腔底	SCC	1		
臼後部	SCC	1		
硬口蓋	SCC	2		
頬粘膜	SCC	1	Buccal fibroma	1
口腔前庭	SCC	1		
上咽頭	SCC	3		
	MALT lymphoma	1		
	Malignant lymphoma	1		
	Malignant lymphoma(DLBCL)	1		
中咽頭	SCC	23	Squamous papilloma	2
	ATLL	2		
	Malignant lymphoma	2		
	Malignant lymphoma(DLBCL)	1		
	Follicular lymphoma	1		
下咽頭	SCC	33	Squamous cell papilloma	1
	Liposarcoma	3		
	ATLL	1		
喉頭	SCC	28	Squamous papilloma	6
耳下腺	Malignant lymphoma	1	Pleomorphic adenoma	18
	Malignant lymphoma(DLBCL)	1	Warthin tumor	12
顎下腺	Malignant lymphoma(DLBCL)	1	Pleomorphic adenoma	2
甲状腺	Papillary carcinoma	5		
	Follicular carcinoma	1		
頸部			Schwanoma	2
			Epidermal cyst	1
			Lymphangioma	1
頸部リンパ節	Metastasis of squamous cell carcinoma	18	Cavernous hemangioma	1
	Metastasis of Papillary carcinoma	3	Lipoma	1
	Metastasis of olfactory neuroblastoma	1	Histiocytic necrotizing lymphadenitis (菊池病)	1
	Spindle cell tumor	1		
	Malignant lymphoma	1		
耳後部			Lipoma	1
			Spindle cell lipoma	1
副咽頭間隙			Pleomorphic adenoma	1
			Basal cell adenoma	1

VII. 手術実績

平成29年度 手術内訳と件数 (平成29年4月1日～平成30年1月31日)

		全身麻酔	314件	
		局所麻酔	41件	
		合計	355件	
耳	鼓室形成術	7	喉頭 喉頭微細手術 (LMS)	18
	鼓膜チューブ留置術	8	喉頭悪性腫瘍切除術	6
	外耳道腫瘍摘出術	1	(全摘3, LMS3)	
	乳突洞削開術	2	喉頭直達鏡検査	2
	外耳道真珠腫除去術	1	甲状軟骨形成術	3
	鼓膜形成術 (湯浅式)	1		
	耳瘻管摘出術	1	甲状腺 甲状腺悪性腫瘍切除術	6
	耳介血腫除去術	1	(全摘5, 部切1)	
	顔面神経減荷術	1		
鼻	鼻内視鏡科副鼻腔手術 (ESS)	48	唾液腺 耳下腺良性腫瘍切除術	20
	鼻中隔矯正術	7	(浅葉19, 深葉1)	
	後鼻孔ポリープ切除術	6	顎下線摘出術	4
	鼻粘膜焼灼術	1	耳下腺悪性腫瘍切除術 (全摘)	2
	鼻副鼻腔腫瘍切除術	5	顎下線唾石摘出術 (口内法)	5
	(うち鼻外切開併用2)		がま腫摘出術	1
	下甲介粘膜下切除術	4	舌下腺摘出術	1
	上顎良性腫瘍摘出術	2	耳下腺腫瘍生検術	1
	鼻骨骨折徒手整復術	3		
	上顎骨観血の手術	2	頸部 頸部郭清術	28
	後鼻神経切断術	2	気管切開術	27
	鼻内視鏡下腫瘍生検術	1	リンパ節摘出術	13
	顎動脈結紮術	1	頸部腫瘍摘出術	3
			深頸部膿瘍切開排膿術	4
		副咽頭間隙腫瘍摘出術	2	
口腔	舌悪性腫瘍切除術 (舌半切)	4	甲状舌管嚢胞摘出術	1
	舌悪性腫瘍切除術 (舌部切)	7	気管開大術	3
	口腔悪性腫瘍切除術	1	気管孔形成術	1
	がま腫摘出術	1		
咽頭	両側口蓋扁桃摘出術	65	異物 遊離空腸再建術	8
	食道直達鏡検査	13	腹直筋皮弁再建術	2
	下咽頭悪性腫瘍切除術	17	前腕皮弁再建術	1
	(ESD9, 咽喉食摘8)			
	アデノイド切除術	19		
	中咽頭悪性腫瘍切除術 (TOVS2)	5	合計	402
	扁桃周囲膿瘍切開排膿術	2		
	咽後膿瘍切開排膿術	1		

(平成30年3月現在)

文部科学省科学研究費

基盤研究 (C)

ホスホリルコリンの二相作用を応用した新たな粘膜ワクチンの開発

研究代表者 黒野 祐一

基盤研究 (C)

粘膜免疫応答誘導型経皮ワクチンの開発

研究代表者 永野 広海

基盤研究 (C)

鼻咽腔関連リンパ組織 (NALT) の免疫記憶機能を応用した新規粘膜ワクチンの開発

研究代表者 大堀 純一郎

基盤研究 (C)

ホスホリルコリン経鼻免疫追加によるあらたな肺炎球菌ワクチン接種プログラムの開発

研究代表者 間世田 佳子

若手研究 (B)

ホスホリルコリン舌下投与によるアレルギー性鼻炎の制御機構に関する研究

研究代表者 牧瀬 高穂

若手研究 (B)

IgA 腎症における口蓋扁桃の免疫応答と新たなバイオマーカーの開発

研究代表者 地村 友宏

日本医療研究開発機構 (AMED)

粘膜免疫誘導型インフルエンザワクチンの開発に向けた研究

研究開発代表者 長谷川 秀樹 (国立感染症研究所)

研究開発分担者 黒野 祐一 大堀 純一郎

1. 原 著

- (1) 永野広海, 宮下圭一, 黒野祐一
中咽頭に発生したEBウイルス感染を伴うメトトレキサート関連リンパ増殖性疾患例
口腔・咽頭科 30(1):67-71, 2017
- (2) 永野広海, 地村友宏, 原田みずえ, 大堀純一郎, 黒野祐一
化学放射線治療後の咽頭閉塞に対して咽頭形成術とバルーン拡張術を施行した1例
口腔・咽頭科 30(1):73-77, 2017
- (3) 馬越瑞夫, 永野広海, 牧瀬高穂, 黒野祐一
内頸静脈並びに腕頭静脈に腫瘍塞栓を形成した腎細胞癌の甲状腺転移の1例
口腔・咽頭科 30(1):79-84, 2017
- (4) 井内寛之, 永野広海, 地村友宏, 馬越瑞夫, 牧瀬高穂, 川島雅樹, 宮下圭一,
原田みずえ, 大堀純一郎, 黒野祐一
下咽頭癌の病期と患者の居住地域および受診背景に関する検討
口腔・咽頭科 30(1):85-90, 2017
- (5) 吉福孝介, 松崎 勉, 西元謙吾, 青木恵美
後頸部に発生した神経鞘腫の1症例
頭頸部外科 27(1):85-89, 2017
- (6) 地村友宏, 川島雅樹, 永野広海, 黒野祐一
軟口蓋麻痺で発症した acute oropharyngeal palsy 例
日本口腔・咽頭科学会 30(2):171-174, 2017
- (7) 黒野祐一
アレルギー性鼻炎の薬物療法における留意点
日耳鼻群馬県地方部会会報 35:16-19, 2017

- (8) 西元謙吾, 吉福孝介, 松崎 勉, 花田修一
大量鼻出血により循環不全を起こした遺伝性出血性末梢血管拡張症（オスラー病）例
耳鼻臨床 110(11) : 733-738, 2017
- (9) 大堀純一郎, 宮下圭一, 牧瀬高穂, 永野広海, 川畠雅樹, 原田みずえ, 馬越瑞夫
黒野祐一
扁桃周囲膿瘍の臨床所見とガレノキサシンの組織移行性の比較
日本耳鼻咽喉科感染症・エアロゾル学会会誌 6(1) : 15-19, 2018
- (10) K. Miyashita, J. Ohori, H. Nagano, S. Fukuyama, Y. Kurono
Intranasal immunization with phosphorylcholine suppresses allergic rhinitis in mice
The Laryngoscope 2017
- (11) H. Nagano, Y. Kurono, K. Matsushita
Adult T-cell leukemia/lymphoma in patients with head and neck cancer after S-1
chemotherapy
Auris Nasus Larynx 44: 195-198, 2017
- (12) H. Nagano, T. Jimura, M. Ngano, T. Makise, K. Miyashita, Y. Kurono
Transcutaneous immunization in auricle skin induces antigen-specific mucosal and
systemic immune responses in BALB/c mice
Auris Nasus Larynx 44: 411-416, 2017

2. 総 説

- (1) 黒野祐一
最新医学 別冊 診断と治療のABC 127 アレルギー性鼻炎
第4章 治療 抗ロイコトリエン薬
最新医学社 : 71-76, 2017
- (2) 黒野祐一
急性副鼻腔炎－スコアリングシステムによる重症度分類と治療アルゴリズム－
ENT 臨床フロンティア 耳鼻咽喉科標準治療のためのガイドライン活用術
131-135, 2017

(3) 黒野祐一

急性副鼻腔炎－ネブライザー療法－

ENT 臨床フロンティア 耳鼻咽喉科標準治療のためのガイドライン活用術

136-138, 2017

(4) 黒野祐一

鼻アレルギー診療ガイドライン2016年版の使い方と新規抗ヒスタミン薬への期待

鼻アレルギーフロンティア 17(2): 98-102, 2017

3. 国内学会発表

(1) 特別講演

大分大学医学部臨床講義 平成29年6月12日（大分市）

「口腔・咽頭癌」

黒野祐一

北多摩耳鼻咽喉科医会 学術講演会 平成29年6月28日（東京都）

「アレルギー性鼻炎の薬物療法における留意点と最新の話題」

黒野祐一

鳥根大学医学部講義 平成29年7月13日（出雲市）

「鼻科領域の疾患と治療」

黒野祐一

千葉3大学耳鼻咽喉科セミナー2017 平成29年7月14日（千葉市）

「扁桃の免疫・アレルギー学的考察」

黒野祐一

呼吸器 / 耳鼻科感染症治療 Up To Date

～抗菌薬の適性使用を考える～ 平成29年9月3日（名古屋市）

「呼吸器 / 耳鼻科感染症治療の最近の話題」

黒野祐一

呼吸器 / 耳鼻科感染症治療 Up To Date

～抗菌薬の適性使用を考える～ 平成29年9月9日（東京都）

「呼吸器 / 耳鼻科感染症治療における抗菌薬の適性使用」

黒野祐一

第19回 マレウスの会 平成29年12月7日（富山市）

「アレルギー性鼻炎の薬物治療における留意点と最新の話題」

黒野祐一

呼吸器 / 耳鼻科感染症治療 Up To Date

～抗菌薬の適性使用を考える～ 平成29年12月9日（福岡市）

「呼吸器 / 耳鼻科感染症治療における抗菌薬の適性使用」

黒野祐一

長崎県耳鼻咽喉科専門医講座 平成30年1月11日（長崎市）

「アレルギー性鼻炎の治療における抗ヒスタミン薬の位置づけ」

黒野祐一

東部備後耳鼻咽喉科医会学術集会 平成30年1月31日（福山市）

「アレルギー性鼻炎の薬物治療における留意点と最新の話題」

黒野祐一

第6回鹿児島アレルギー講習会 平成30年2月7日（鹿児島市）

「アレルギー性鼻炎に対する舌下免疫療法 Up to date」

宮之原郁代

アレルギー講習会 平成30年2月21日（熊本市）

「アレルギー性鼻炎の治療における抗ヒスタミン薬の位置づけ」

黒野祐一

第402回大分市小児科医会学術講演会 平成30年2月28日（大分市）

「アレルギー性鼻炎の診療における留意点」

黒野祐一

(2) シンポジウム

第66回日本アレルギー学会学術大会 平成29年 6月16日～18日（東京都）

「耳鼻咽喉科の現状」

黒野祐一

第5回日本耳鼻咽喉科感染症・エアロゾル学会総会・学術講演会

平成29年 9月21日～22日（大津市）

「急性喉頭蓋炎の臨床像と救急対応」

大堀純一郎

(3) 一般

第35回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会 平成29年 4月13日～15日（旭川市）

「高齢マウスにおける pFL+CpG-ODN 単独追加投与による抗原特異的免疫応答の再活性」

川畠雅樹, 大堀純一郎, 黒野祐一, 藤橋浩太郎

「ホスホリルコリン舌下免疫による1型アレルギー反応の抑制」

牧瀬高穂, 黒野祐一

第118回日本耳鼻咽喉科学会通常総会・学術講演会

平成29年 5月17日～20日（広島市）

「オンラインシステムを用いたスギ花粉症に対する舌下免疫療法の服薬状況、有害事象ならびに QOL 調査の試み」

宮之原郁代, 大堀純一郎, 牧瀬高穂, 地村友宏, 永野広海, 黒野祐一

「浅側頭動脈に発生した IgG4 関連血管炎（準確信群）の1症例

吉福孝介, 西元謙吾, 松崎 勉

「当科における下咽頭表在癌の食道表在癌拡大内視鏡分類による組織進達度についての検討」

宮下圭一, 大堀純一郎, 黒野祐一

「当科における経口切除不能と判断した咽頭表在癌の検討」

大堀純一郎, 宮下圭一, 原田みずえ, 永野広海, 川畠雅樹, 牧瀬高穂, 馬越瑞夫, 井内寛之, 地村友宏, 黒野祐一

「肺炎球菌およびインフルエンザ菌の上皮接着におけるホスホリルコリンの関与」

井内寛之, 黒野祐一

第41回日本頭頸部癌学会 平成29年6月8日～9日（京都市）

「咽喉食摘をおこない pSEP と診断された下咽頭癌症例の検討」

大堀純一郎，宮下圭一，川畠雅樹，牧瀬高穂，馬越瑞夫，井内寛之，地村友宏，
黒野祐一

「高用量シスプラチン（CDDP）併用放射線治療に対する Mg 投与における臨床的
検討」

井内寛之，大堀純一郎，黒野祐一

「鼻疾患におけるネブライザー療法実態調査（第2報）」

兵 行義，大木幹文，松原 篤，竹内万彦，藤枝重治，清水猛史，原田 保，
黒野祐一

第66回日本アレルギー学会学術大会 平成29年6月16日～18日（東京都）

「ホスホリルコリンに対する血清中抗体活性とアレルギーの感作・発症リスクの関
連性についての検討」

宮之原郁代，大堀純一郎，牧瀬高穂，黒野祐一

第79回耳鼻咽喉科臨床学会総会・学術講演会 平成29年7月6日～7日（下関市）

「鼻疾患におけるネブライザー療法実態調査（第2報）」

兵 行義，大木幹文，松原 篤，竹内万彦，藤枝重治，清水猛史，原田 保，
黒野祐一

「診断に苦慮した頸部悪性リンパ腫症例」

原田みずえ，地村友宏，永野広海，大堀純一郎，黒野祐一

「上顎小細胞癌の2例」

馬越瑞夫，大堀純一郎，永野広海，黒野祐一

第24回マクロライド新作用研究会 平成29年7月21日～22日（東京都）

「Poly（I:C）刺激による IL-8 および PAF 受容体の発現に対するマクロライドの
作用」

原田みずえ，地村友宏，川畠雅樹，黒野祐一

第30回日本口腔・咽頭科学会総会ならびに学術講演会

平成29年9月7日～8日（金沢市）

「PspA 点眼投与による上気道粘膜免疫応答の誘導」

永野広海，川畠雅樹，大堀純一郎，黒野祐一

「下極型扁桃周囲膿瘍の臨床的特徴」

川島雅樹, 馬越瑞夫, 松元隼人, 大堀純一郎, 黒野祐一

第5回日本耳鼻咽喉科感染症・エアロゾル学会総会・学術講演会

平成29年9月21日～22日（大津市）

「扁桃周囲膿瘍の臨床所見とガレノキサシン組織移行性との比較」

黒野祐一, 牧瀬高穂, 川島雅樹, 馬越瑞夫, 大堀純一郎

「肺炎球菌およびインフルエンザ菌の上皮細胞への接着・侵入に対するホスホリルコリン重合体の効果」

井内寛之, 大堀純一郎, 黒野祐一

第11回九州頭頸部癌フォーラム 平成29年10月28日（福岡市）

「Only hearing ear に発生した外耳道癌症例」

地村友宏, 川島雅樹, 大堀純一郎, 松元隼人, 黒野祐一

第69回日本気管食道科学会総会ならびに学術講演会

平成29年11月8日～9日（大阪市）

「下咽頭表在癌の肉眼および拡大内視鏡分類と組織進達度についての検討」

宮下圭一, 大堀純一郎, 黒野祐一

第28回日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会

平成30年1月25日～26日（宇都宮市）

「下咽頭表在癌単発例と多発例に対するESD後の再発に関する臨床検討」

宮下圭一, 大堀純一郎, 黒野祐一

「鼻性眼窩内合併症例の臨床的特徴と視力予後」

川島雅樹, 宮下圭一, 黒野祐一

第36回 日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会 平成30年2月22日～24日（下関市）

「13価肺炎球菌結合型ワクチン接種後のホスホリルコリン経鼻追加免疫のブースター効果」

大堀純一郎, 井内寛之, 地村友宏, 川島雅樹, 永野広海, 黒野祐一

「PspA 点眼投与による上気道粘膜免疫応答の誘導」

永野広海, 川島雅樹, 大堀純一郎, 黒野祐一

4. 国際学会発表

Seven Departments Joint Meeting of Otolaryngology 2018

Beppu City, Oita March 23-24, 2018

「The Role of phosphorylcholine in the adherence of *Streptococcus pneumoniae* and nontypeable *Haemophilus influenzae*」

H.Iuchi, J.Ohori, T.Kyutoku, Y.Kurono

「Differences in immune responses induced by intranasal administration with phosphorylcholine together with poly (I : C) and that with CT as mucosal adjuvant」

T.Jimura, H.Ngano, Y.Kurono

1. 新入局員紹介

田 淵 みな子

この度、11月から入局させていただくことになりました田淵みな子と申します。鹿児島市出身で、鶴丸高校、九州大学医学部を卒業後、平成21年に同大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科に入局しました。10ヵ月間大学病院で勤務し、その後約3年間は山口県の山口赤十字病院で勤務しました。平成25年に専門医を取得しましたが、その頃より、結婚、長女と次女の出産、引っ越しとライフイベントが続き、休職期間が長くなってしまいました。平成28年に同郷である主人が、鹿児島大学工学部に就職することになり、15年ぶりに鹿児島に戻ってくることになりました。今回、このような状況の私の入局を受け入れてくださって、本当にありがたく思っております。耳鼻科医としてまだまだ未熟であり、ご迷惑をおかけする面が多々あると存じますが、今後とも御指導御鞭撻の程、宜しく願い申し上げます。

高校・大学時代の部活：弓道部

家族：主人（料理が得意）、娘2人（3歳、1歳）

好きなこと：ショッピング

松 崎 尚 寛

新入局員の松崎尚寛と申します。

鹿児島の出身で、ラサール高校を卒業後鹿児島大学医学部医学科に入学しました。大学時代はバドミントン部に所属し、卒業後は鹿児島医療センターで2年間初期研修を行いました。

学生の頃から耳鼻咽喉科に興味がありましたが、研修で鹿児島医療センターの耳鼻咽喉科と鹿児島大学病院の耳鼻咽喉科で研修させて頂いた際に、耳鼻咽喉科領域の専門性の高さや先生方の雰囲気惹かれて入局に至りました。

今はまだわからない事ばかりですが、教授をはじめ、先生方に丁寧に指導していただき充実した日々を過ごしております。少しでも早く一人前になり、鹿児島の医療に貢献できるように努力してまいりますので、ご指導のほどよろしくお願いいたします。

2. 医局人事（平成30年4月現在）

教 授 黒野祐一
講 師 大堀純一郎
助 教 宮下圭一，永野広海，川島雅樹，牧瀬高穂，井内寛之
医 員 間世田佳子，馬越瑞夫，地村友宏，宮本佑美，久徳貴之
田淵みな子，松崎尚寛

医 局 長 川島雅樹
外来医長 牧瀬高穂
病棟医長 永野広海

関連病院（平成30年4月現在）

鹿児島医療センター	西元謙吾，吉福孝介，松元隼人
鹿児島市立病院	高木 実，伊東小都子
国立療養所星塚敬愛園	宮之原郁代
鹿児島生協病院	積山幸祐
藤元総合病院	森園健介
あまたつクリニック	谷本洋一郎
鹿児島厚生連病院	原田みずえ

3. 学会報告

第35回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会

牧瀬 高穂

2017年4月13日から3日間、北海道旭川市で開催された第35回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会に、黒野教授、川島先生、小生の3人で参加いたしました。川島先生は「高齢マウスにおける pFL+CpG-ODN 単独追加投与による抗原特異的免疫応答の再活性」、小生は「ホスホリルコリン舌下免疫による1型アレルギー反応の抑制」の演題で発表を行いました。複数の質問や意見をいただくことができ、有意義な発表となりました。また、本学会では若手耳鼻科医の集まりにも参加することができ、同世代の耳鼻科医がそれぞれの場所で頑張っていることを知り、同期のいない私にとっては大変刺激的で楽しい時間となりました。4月の旭川は季節外れの寒波に見舞われ、北海道の味覚のみならず雪景色まで楽しむことができました。学会終了後は、「鹿児島帰ったらまた頑張ろう」と決意新たに帰路につきました。

第118回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会

久 徳 貴 之

2017年5月17日～20日の期間に、広島国際会議場・ANAクラウンプラザホテル広島にて、第118回日本耳鼻咽喉科学会通常総会・学術講演会が開催されました。各先生の発表演題は、黒野祐一教授：ガイドライン、指針、手引き—日常診療への応用—（司会）、大堀純一郎先生：当科における経口切除不能と判断した咽頭表皮癌の検討、宮下圭一先生：当科における下咽頭表在癌の食道表在癌拡大内視鏡分類による組織進達度についての検討、井内寛之先生：肺炎球菌およびインフルエンザ菌の上皮接着におけるホスホリルコリンの関与、の4題でした。私は発表はしていませんが連れて行っていただき、貴重な体験ができました。壇上で輝く医局の先生方を拝見し、自分も立派な発表をしたいという思いを強くいたしました。

広島の食事は好み焼きを初めとした大衆料理が人気ですが、学会のお昼休みに食べた汁なし担担麺は絶品でした。山椒が豊富に使用されており、麺とからめて口の中に入れると、実に刺激的な風味が楽しめます。宮下先生と井内先生はもう二度と食べないと言っていましたが、大堀先生は口を腫らして大変気に入っておられました。

2018年は宿題報告を，2019年には総会を当教室で主催することとなっており，医局員一丸となって邁進していく所存です。

第41回日本頭頸部癌学会

大 堀 純一郎

本学会は2017年6月8日，9日に京都のウエスティン都ホテル京都で開催された。当医局からは，黒野教授，大堀，井内，伊東の3人が参加した。本学会の開催は，ちょうどAJCC-TNM分類の第8版が2017年1月に改訂された後の第1回目の頭頸部癌学会であった。中咽頭癌の分類が大きく変わる点に注目が集まっており，シンポジウムでもHPV陽性中咽頭癌について取り上げてあり注目されていた。中咽頭癌という一つの表現型が，2つの原因からなるということが明らかになり，TNM分類が大きく変更されるという時代の変化を感じた。

また特別講演では，本庶 佑先生の特別講演を聞くことができた。本庶先生はPD-1を車のブレーキに例え，「アクセルを踏んでもだめならブレーキを外せばよい」と新たな視点に立つことの重要性を説かれていた。抗がん剤から分子標的薬，免疫チェックポイント阻害薬と癌の薬物療法の発展のまさにその時に自分が頭頸部外科医としていたことを感じた。変化に遅れることなく常に最先端の情報にアンテナを張りつつ，確実な日常臨床を心がけようと気持ちを新たにすることができたとても勉強になる学会であった。

第66回日本アレルギー学会学術大会

2017年6月16日～18日
東京 東京国際フォーラム

宮之原 郁 代

今大会は，「紡ぎだす，アレルギー学の新たな半世紀 ～知りえたコト，解くべきコト～」というテーマで開催されました。世界的に，アレルギー疾患を有する患者の増加が依然とあり，日本でも乳幼児から高齢者まで国民の2人に1人が，何らかのアレルギー疾患を有していると言われています。そのような背景の中，アレルギー疾患対策の総合的な推進を図ることを目的に，平成29年3月にアレルギー疾患対策基本指針が策定されました。今回，特別講演「アレルギー疾患対策基本方針策定とその後の流れ」（厚

生労働省健康局がん・疾病対策課)が生まれ、今後ますますのアレルギー疾患対策への取り組みが要請されました。

私自身は、ミニシンポジウム「通年性アレルギー性鼻炎および慢性副鼻腔炎」のセッションで、「ホスホリルコリンに対する血清中抗体活性とアレルギーの感作・発症リスクの関連性についての研究」のタイトルで発表しました。これは、2018年開催の日耳鼻総会での宿題報告の一環として行ってきた仕事の一部です。興味深い結果が得られましたので、是非モノグラフなどでご覧頂ければ幸いです。

今回は、日耳鼻の会議と日程が重なってしまい1日半しか参加できませんでしたが、発表、また情報収集をすることができ有意義でした。

第79回耳鼻咽喉科臨床学会総会・学術講演会

馬 越 瑞 夫

2017年7月6日から7月7日に開催された第79回耳鼻咽喉科臨床学会総会・学術講演会に原田先生、研修医の2人(松崎 Jr. 先生、濱田先生)と共に参加させていただきました。

原田先生は「診断に苦慮した頸部悪性リンパ腫症例」、私は「上顎洞原発小細胞癌の2例」の演題でポスター発表を行いました。多くの質問を受け、今後の実臨床に生かせる経験ができました。なお2日共九州北部豪雨のため天気が悪かったため学会場にすぎ付けでした。臨床セミナー「耳鼻咽喉科診療 Skill Up」ではあやふやであった知識が、朝から update することができました。一般演題においても臨床に即した熱い討論が交わされており、得るものが大きかったです。なお学会懇親会場のふぐのから揚げがてんこ盛りになっていたのもいい思い出です。松崎先生入局万歳。

第32回九州連合地方部会学術講演会

伊 東 小 都 子

九州大学主幹で福岡にて九州連合地方部会が開催されました。恒例の野球大会が雁ノ巣レクリエーションセンターで開催され、今回は準硬式野球部の5年生2名を含め10人での参加となりました。1試合目の宮崎大学に圧勝し、その時点でベスト4が決定し、その後2試合行うこととなりました。しかし大堀先生が教育公演で演者であったため、2試合目より9人での全員野球となり、準決勝で熊本大学、3位決定戦で久留米大学に負

け、結果4位で終了しました。炎天下の下で予想外の3試合ということで全員疲労困憊でありましたが、怪我なく終わることができました。夜の懇親会で自分を含めた鹿児島大学の新入局者3名を川島先生より紹介していただき、個人的に野球大会の鹿児島大学のMVPとして表彰していただいたことが一番の思い出です。翌日は発表の機会を与えていただき、緊張しましたが、いい経験をさせていただきました。

第24回 マクロライド新作用研究会

原 田 みずえ

平成29年7月21日、22日に、東京にて開催された第24回マクロライド新作用研究会に参加させていただきました。

今回は、ヒト中耳粘膜上皮細胞を用いて、「Poly (I:C) 刺激による IL-8の産生およびPAF受容体の発現とマクロライドの効果」と題して発表させていただいたのですが、壇上で質問を受けていたところ、突然、地震がおきてすごくびっくりしました。私の前に発表された先生方は、みな素晴らしい発表なのに対し、私はいつもいい結果が発表できないので、非常に緊張していたのですが、地震が起きたおかげで、最後はちょっと緊張がほぐれました。また、この会はいつもおもしろい話題や知らない話題があるのですが、今回はマクロライド系抗菌薬がQT延長によるTorsades de pointesや心室細動などの致死性不整脈を誘発するメカニズムについてもセミナーがありました。いつもはマクロライドの効果ばかり考えて処方していることがほとんどですが、これからも副作用にも気を付けて、マクロライドに興味を持ち続けながら臨床にも役立てていきたいと思いました。

第30回日本口腔・咽頭科学会総会・学術講演会

永 野 広 海

第30回日本口腔・咽頭科学会が平成29年9月7日から8日までの期間、金沢医科大学耳鼻咽喉科の主催において金沢市で開催されました。

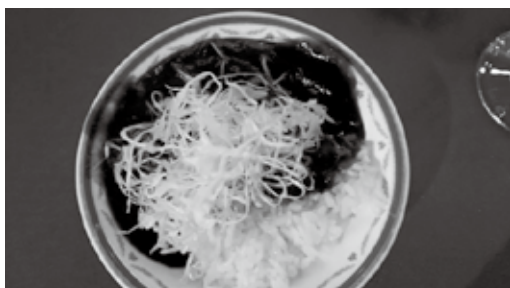
当教室からは、黒野教授・川島先生・松元先生と永野の4名で参加して参りました。

川島先生は『下極型扁桃周囲膿瘍の臨床的特徴』を、私は『PspA点眼投与による上気道粘膜免疫応答の誘導』を口演で発表しました。留学先での基礎研究のため座長の先生からのみ質問をいただきました。今後はもっと白熱する演題で挑戦していきたいと考

えました。今年度入局した松元先生も参加されました。色々な分野で興味を持っていただけで幸いです。金沢市は東京から新幹線が直結した影響でたくさんの観光客がみえていました。懇親会では北陸らしい海や山の幸が沢山提供して頂きました。また金沢カレーもなかなかのものでした。



未来を担うはずの松元隼人先生（懇親会にて）



金沢カレー（懇親会にて）



古都の街並み

第5回日本耳鼻咽喉科感染症・エアロゾル学会総会・学術講演会

井内寛之

平成29年9月21日～22日に第5回日本耳鼻咽喉科感染症・エアロゾル学会総会・学術講演会が天津市で開催されました。大学からは黒野教授，大堀先生，井内が参加しました。黒野教授は「扁桃周囲膿瘍の臨床所見とガレノキサシン組織移行性との比較」，大堀先生は「急性喉頭蓋炎の臨床像と救急対応」井内は「肺炎球菌およびインフルエンザ菌の上皮細胞への接着・侵入に対するホスホリルコリン重合体の効果」について発表しました。講演で急性中耳炎において肺炎球菌ワクチン株の検出率は減少していますが，他株の検出が増加しているデータが示されました。当教室で研究しているPCワクチンの重要性を改めて認識させられました。琵琶湖が一望できるホテルが会場で，景色が最高で鳥人間になりたくなりました。

第69回日本気管食道科学会総会・学術講演会

宮 下 圭 一

2017年11月8日から9日にかけて、近畿大学呼吸器・アレルギー内科主催の大阪国際会議場で開催された「第69回気管食道科学会総会ならびに学術講演会」に黒野教授と私の2人で参加致しました。学会第1日目にあった「アナフィラキシーへの対応」というテーマで、耳鼻咽喉科専門医領域講習があり、座長を黒野教授がされました。私は2日目に「下咽頭表在癌の肉眼および拡大内視鏡分類と組織進達度についての検討」というタイトルで発表致しました。懇親会では、主催の近畿大学による近大マグロの解体マグロショーがステージで行われましたが、食べたくて並んでいたら、あっという間にマグロの刺身は消えていきました。気管食道科学会は、耳鼻科以外の領域の発表もみることができ、とても参考になりました。



近畿大学マグロ解体ショー

第28回日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会

川 島 雅 樹

平成30年1月25、26日に宇都宮で第28回頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会が開催されました。当教室からは黒野教授、宮下先生、私の3人が参加しました。私は「鼻性眼窩内合併症例の臨床的特徴と視力予後」という演題で、当科における鼻性眼窩内合

併症の視力予後における検討を行い、発表しました。頭頸部外科学会の特徴として、手術の動画を数多く見ることができることが挙げられます。諸先生方のきれいな手術映像に感嘆するとともに、手術は頭でするものだという印象を強く受けました。学会開催期間中は関東地方に低温注意報がだされ、氷点下の日が続きました。おかげで外出が億劫となり、宇都宮観光という誘惑に負けることなく、学会場にとどまってしっかりと勉強することができました。宇都宮から鹿児島空港にたどり着くと氷点下6℃。旅程中で最も寒かったのは実は鹿児島でした。

5. 関連病院便り

鹿児島医療センター便り

西 元 謙 吾

平成29年度の鹿児島医療センター耳鼻咽喉科は例年と変わりなく3人体制でしたが、研修医が多く回ってきていただいたためにぎやかに診療ができました。研修医に指導しながら手術をすると自分の手術を別の視点で振り返ることもできてステップアップにつながると感じます。30年度もインスピレーションを与えてくれるような刺激的な研修医が耳鼻咽喉科に研修に来てくれることを期待します。

平成29年度の新規医療機器ですが、医療センターの厳しい現状も踏まえ、目新しい医療機器は導入できませんでした。頸部エコーなどは10年以上使っている年代のもので新調したいところですが、背に腹は代えられないと頑張って使っていきます。今年度は故障によるトラブルを回避する意味でもぜひとも予算を通したいところです。

昨年度は、頭頸部癌の患者で色々考えさせる症例が多かったように思います。巷に医療に関する情報があふれている現在、一昔前のような感覚では患者のニーズにこたえることができないこともあると痛感させられる1年でした。医療を提供する我々の方も最新の情報を欠かさず収集して対応していかなくはなりません。そのためには他科やコメディカルなどと協力するチーム医療が必要と考えていたところでしたが、幸いにも平成30年度から通信病院との合併などで肝臓内科・腎臓内科・眼科が新しく増設されます。今後もより一層病院が一体となって診療できるよう体制を構築していきたいと思えます。

最近の悪性腫瘍に対する手術は、可能な限り機能的障害が少なくなるよう内視鏡や顕微鏡下に部分切除を積極的に行う傾向ですが、当院でも経口的内視鏡下喉頭・咽頭手術(TOVS)やLMS下CO2レーザー切除術の症例数が多くなっています。また、CRT・BRTで根治する症例も多くなっており、10年前までかなり多かった進行癌に対する拡大切除・遊離組織弁による再建術が若干少なくなっている印象です。ただ、舌・口腔進行癌やCRT・BRTでは根治困難な咽頭・喉頭癌、扁平上皮癌以外の進行癌など、まだまだ再建手術が必要な症例もあり、今後もなくなることはないと思えますので踏ん張っていききたいと思います。

平成29年度の手術症例は以下に示しますが、ほぼ例年通りといったところです。高齢化を反映してか気管食道分離術が多くなっています。平成30年度は後期研修医が増える見通しですのでさらに質の高い耳鼻咽喉科医療を提供できるように努力していきたいと思えます。

手術件数（手術記録にあるもの）

良性疾患

口蓋扁桃摘出術（アデノイド切除術同時手術も含む）	84例
内視鏡下鼻副鼻腔手術（devi+subcon 同時手術も含む）	両側70例 片側71例
鼻副鼻腔腫瘍（内視鏡・外切開含む）	4例
鼻咽腔血管線維腫摘出術（塞栓後手術）	1例
鼻中隔矯正術・粘膜下鼻甲介骨切除術	15例
BOF など骨折整復手術	1例
鼓室形成術	21例
鼓膜形成術	9例
顔面神経管開放術・内耳窓閉鎖術	4例
外耳道真珠種手術	1例
外耳道良性腫瘍手術	5例
チューブ留置術・アデノイド切除・先天性耳瘻孔など	14例
耳下腺良性腫瘍摘出術	43例
顎下腺良性摘出術・顎下腺腫瘍摘出術	21例
舌下腺良性摘出術・舌下腺腫瘍摘出術	1例
甲状腺良性腫瘍摘出術	13例
副甲状腺腫瘍摘出術	5例
頸部良性腫瘍・嚢胞摘出術	22例
深頸部膿瘍切開排膿	2例
嚥下機能手術	4例
口腔腫瘍など	19例
喉頭直達鏡手術・食道直達鏡手術	73例
その他（気管切開・リンパ節摘出術・皮弁形成術など）	42例
	545例

悪性疾患

頭頸部悪性腫瘍手術（遊離皮弁による再建術あり）	16例
喉頭全摘術	2例
口腔・咽頭悪性腫瘍手術（経口腔的）	30例
喉頭悪性腫瘍手術（経口腔的）	11例
鼻副鼻腔悪性腫瘍手術	2例
頸部郭清術単独	19例

甲状腺悪性腫瘍手術	15例
耳下腺悪性腫瘍手術	7例
顎下腺悪性腫瘍手術	3例
その他	2例
	107例
(悪性腫瘍手術で頸部郭清を行った症例：両側18例 片側35例 合計71例)	
総症例数	652例

鹿児島市立病院便り

高 木 実

いつもお世話になっております。鹿児島市立病院の高木です。

ここ数年鹿児島市立病院では目まぐるしい転換を遂げました。

診療以外は、平成29年度は今までの変化が嘘のような概ね平穏な1年だったような気がします。

変化といえばやはり紹介制・PET-CT 導入・耳鼻咽喉科専属 ST の配属でしょうか。

初診患者の完全紹介制を導入し、新患予約を開始しました。そのため予約患者を優先的に診察行方方針となりました。それにより予約患者の待ち時間短縮等のサービスを提供することができるのではと……。やはりそんな甘いものではなく、紹介されるほど患者ですから、多種多様な検査等行うため、昼過ぎに終了すればいい方で、夕方までかかることもしばしばです。予約外の方々では……。御想像にお任せします。

PET-CT 導入により、今まで他院へPET-CT を依頼していましたが、院内でそれも早急に検査できるようになり、癌診療のスピードアップの一翼になったことと思います。

また耳鼻咽喉科専属 ST 配属により人工内耳術後のリハビリ等がより充実したことは言うまでもありません。

満足できる医療サービスを提供できるように徐々に体制の転換された1年であったと原稿を書きながら、感じました。

《今年目標》

花牟禮医師

医療の効率化

チーム市立病院

早く帰宅する

林医師

当院では他科との連携が取りやすいが、より一層他科連携を強化していく。高齢者で基礎疾患の多い頭頸部癌症例が多く、長期入院の中で思わぬ合併症や急変することも多いため、他科に助力してもらうことが多々ある。当科も普段からコンサル件数が非常に多く、急な紹介もよくあるができるだけ対応していく。

平原医師

耳科手術年間70症例以上を目指す

高木医師

健康第一・事故・トラブルなく診療にあたる

ST 松田 自己紹介

2017年8月より鹿児島市立病院耳鼻いんこう科に赴任しました松田悠佑と申します。以前は、宮崎大学医学部耳鼻咽喉・頭頸部外科にて勤めておりましたが、前任の牛迫先生の退官にともないこちらへ赴任してまいりました。出身は鹿児島市谷山ですので故郷に戻ってくるかたちの赴任となり、とても嬉しく思います。鹿児島市立病院では主に人工内耳装用児者を診させていただいています。

今日、人工内耳装用者数は増えつつあります。そして小児における早期の医療・療育はその後の発達に大きな影響を与えることが常識化してまいりました。それにともない全国的に医療と療育施設の連携が重要な課題となっております。鹿児島県におきましては、鹿島先生の長きに渡る御尽力もあり県立鹿児島聾学校との連携は素晴らしき形となっておりますので、大船に乗った気持ちで業務をさせていただいております。さらに人工内耳手術の適応聴力も両側70dB以上と改定がなされ、従来は補聴器というデバイスの選択しかできなかった症例に対して人工内耳という選択を増やすことができるようになりました。もちろん補聴器装用効果が得られていないということが条件となるのですが、その上で術後の人工内耳効果が得られるのかどうかの判別は非常に難しくなっています。そういった部分の評価はいまだ確立されていません。若輩者ではございますが九州より発信できるよう努力してまいりたいと思います。多くの先生方からの御指導御鞭撻のほどよろしくお願い致します。

今年度も花牟禮医師を筆頭に皆様のお力になれるように、精一杯診療にあたらせて頂きます。平成30年度も宜しく申し上げます。(文責 高木 実)

また当科で小児難聴診療に長年取り組んで頂きました鹿島直子医師も平成30年5月までの勤務となりました。ここで一言頂きましたので、ご一読のほどお願いします。

新生児聴覚スクリーニング（新スク）後の子どもたちの成長 鹿児島県の医療と教育システムについて

新生児聴覚スクリーニング後の耳鼻咽喉科における聴覚精密検査につきましては、鹿児島市立病院でも多くの新生児のご紹介をいただき、診てまいりました。例えば平成28年度には主として産科医院から新スク refer 児90人（一側 refer 児を含む）のご紹介をいただき、診察をいたしました。

その中には超未熟児、〇〇症候群といわれるような種々の発達に関する問題のある児、あるいは非常に厳しい内耳の形態異常のある児もいますが、4か月以降6か月ごろまでに、まずは補聴器装用を開始し、聴覚言語療育を要する子どもたち、中軽度から重度までの20人を聾学校付設の乳幼児教育相談室に送りだし、早期、脳の可塑性の高いうちからの音刺激と専門療育を開始しています。

子どもたちの聴力レベル、言語発達レベルはまちまちで、途中から保育園や幼稚園に在籍しながら「聾学校付設聴覚相談センター」を時々訪れる程度の補聴状態や言語発達状態の良い子どもや、一方では1歳を過ぎても、言語に至る音反応が得られないと判断された90dB以上の重症児では、人工内耳について検討してすることになります。臨床の現場では、療育の場に送り出すまでが仕事ではなく、その後も常に聴力の進行や変動（滲出性中耳炎も含めて）、補聴状態のチェックなどに関わっていかねばなりません。たとえばCMV胎内感染症や前庭水管拡大症児には聴力の変動があり、症状によっては治療を要します。あるいは一側性難聴児でも健側の聴力の変動もあり得ます。超未熟児やダウン症児、脳室拡大など脳疾患を合併している子どもたちのゆっくりした聴覚系の発達による聴力改善の可能性への対応、伝音難聴の可能性があれば、確定診断と手術時期の検討などなど、後々まで多くの問題が個々それぞれにあります。

先天難聴児を診察するには多くの覚悟が要ります。まず確実な診断はもちろん必要ですが、生まれたばかりの乳児の難聴に向き合う保護者の気持ちに寄り添い支えることです。最近“産後うつ”が話題になっています。私もお一人、重症の方を経験しました。

初めて育児することを大きな喜びをもって待っておられたお母さんでした。療育は父母双方のご家族の温かいサポートで、乗り越えてこられました。医療者も技術の提供だけでなく、ともにそばにいる心が大切だと思うのです。

さらに難聴児の療育は医療、教育、行政が連携してこそ成立します。昔話になりますが、3歳以下の療育のスタートは鹿児島県では、療育センターでの対応がないため、本来ならば、教育委員会の管轄年齢ではないのですが、聾学校幼稚部の員数から2人を持ち出して対応して下さっていました。これは障害児教育課の英断でした。しかし県下次第に新スク検査が浸透してきまして、早期発見、療育の対象児が増加し、0歳児から2歳児の乳幼児教育相談が一举に40人以上になり、療育は大きなマンパワー不足となりました。小学部以上は生徒数に比して教員があふれているように見えていましたが、人数の移行は法律上無理とのこと、本来管轄部署である福祉課も資料の説明を皆さまで聞いて下さいましたが、人員増加は無理でした。結局当時の伊藤祐一郎鹿児島県知事が動いて下さいました。まとめてあった資料（のちに県医師会報に記載したもの—産科の先生方への報告を兼ねたもの）と手紙をお送りして2か月後の3月の人事で、2人の増員を新聞紙上で知りました。行政が難聴児のために動いてくださったのです。そして現在は5人の教職員が担当しています。子どもたちは週1～2回の通園ですから、何とか満たされています。先生方にはまず手話と聴覚言語の違いをしっかりと認識していただいて聴覚言語療育をお願いしています。教育学を専門に学んだ先生方の子どもたちをはぐくむ力を私は尊敬の念をもって拝見しております。幼稚部は通常の幼稚園と同じく毎日の通園です。教員数も充実しています。私は現場にもよく出かけておりますが「言語療育とは技術ではなくまず心育て、親育て」であることを学ばせていただいています。

今年3月の聾学校乳幼児（0歳～2歳児）教育相談閉校式対象人数42人、幼稚部卒業生5人、義務教育卒業生小学部5人、中学部2人、高等部6人です。

この数字からも窺えますが、早期から療育を受けた多くの子どもたちが乳幼児教育の充実、補聴器の性能の進化、そして人工内耳によって音声言語を獲得して、次第にそれぞれの地域の幼稚園や学校に入園、入学して行くということになります。

聾学校から離れた子どもたちには、しかしまだまだ多くの言語的課題があります。それは人工内耳の子どもにも共通しておりますが、彼らは胎生6か月ごろからお母さんの声や音を聞いている健聴児と違ってやはり抽象的な言語力や構文力に遅れが生じます。それが顕著に表れるのが親も大丈夫と手を放してしまう小学3年生～4年生ごろです。この時期は抽象的な言語力が急激に伸びて、言葉をもって思考力も育つ時期、つまり9歳の壁といわれる時期です。そこで会話も弾みを持ってくる健聴の子どもたちの群れに入れなかったり、学習にも困難を感じたりします。もちろん本来持っている性格など個人差はありますが、やはり精神的にも、再度手厚い関りが必要になってきます。そこで

誰が気づいてやれるのか、担任の先生が気づいて保護者とちゃんと連携できるのか、単に「成績がおちた」で済まされてしまうのかです

先生方にお願ひがあります。学校健診の際に「補聴器や人工内耳を装用している児童」を担任から申告していただいて、3～4年生に限らずですが、その難聴の子どもたちを観察していただきたいのです。問題があれば補聴状態の確認と「聾学校 聴覚相談センター」での相談を提言してください。対象児は1校に数名もおりません。昨年は人工内耳装用児で学業も問題のなかった子が4年生になって、急激に会話力の伸びてきた周囲の友だちの輪に入れずに苦しんでいるのをみて、この時期の関りの大事さを改めて痛感しました。この耳鼻咽喉科健診に関しましては、勝手ですが県・市障害児教育課にもお願ひしてみました。

インクルーシブ教育が行われるようになって以来、特別支援が必要な子どもたちには、支援学級の設置などの措置があることはご承知の通りですが、子どもたちの節々の動きに伴って、つまり保育園、幼稚園、小学校、中学校、高校進学等その節々で情報が細かに次へつながらよう記録されていく支援移行シートも存在します。教師によって記録され、繋がれていくものですが、ともすれば難聴児は見逃されがちです。目には見えませんが言語に関する障害は決して軽いものではありません。難聴児の節々の評価がきちんとなされ、適切な配慮がなされるように学校現場へのご指示もお願ひいたします。

新生児聴覚スクリーニングは産婦人科医会のご努力下、鹿児島県でも十分に普及してきました。昨年度からは公費負担が始まりました。事務的な取り扱いは産婦人科医会との連携により県医師会で行っておりますが、30年度からは全国に先駆けて、県内全市町村が公費負担に踏み切ることになりました。

小児の人工内耳に関しましては市立病院では故笠野藤彦先生が両側ムンプス難聴の6歳児に埋め込み手術を施行したことから始まり、今日まで宮崎大学から出向の先生方です。都合により2年前からは東野教授が自ら執刀手術をして下さっています。術後のマッピングや言語リハはベテランの宮崎大学耳鼻科咽喉科講師の牛迫先生から、同じく宮大聴覚難聴センターから常勤の松田ST.を得て順調に行われております。また聾学校幼稚部には人工内耳の子どもたちがいっぱい元気に学んでいます。今年の卒園生5人も人工内耳を装用しています。2人は校区の小学校へ、3人は引き続き小学部で音声言語教育による専門教育を受けます。いま聾学校は聴覚支援学校として音楽も盛んで、にぎやかな学校となっています。

今回、高木実先生のお勧めがあり散文を書かせていただくことにしました。長くなりましたが、ありがとうございました。

(文責 鹿島直子)

藤元総合病院便り

森 園 健 介

皆様いかがお過ごしでしょうか。藤元総合病院に勤務させていただいております森園です。

2017年秋に6年ぶりに新燃岳が噴火し、2018年3月に再び噴火を繰り返すようになったことで、都城も火山灰被害をたびたび受けております。最近ではTVの天気予報で新燃岳上空の風向きも放送されるようになり、ガソリンスタンドの駐車場には長い行列が出来たりとスタッフや患者さんたちもかなり困っておられる様子です。しかし鹿児島の人間である私は桜島に比べると大したことはないよなー、と皆の困惑顔を眺めながら毎日を過ごしております。

さて当院のここ1年間の変化ですが、まず病院の外壁が一部落下する事故があったことを受け、外壁の補修・塗装が数か月にわたって行われておりました。外壁を保護する溶剤の影響で病院全体がシンナー臭い時期がありましたが、最近になってようやく補修が完了し、とりあえず一安心といったところです。

それから外来受付・薬局受付・入退院支援センターなどのリニューアルが現在進行中です。受付や会計などの待ち時間が長いというのはどの病院でも悩みの種かと思いますが、リニューアルにより少しでも患者さんの時間的負担が軽減されるようになることを期待しております。

また感染症が疑われる患者さんがほかの患者と接触することを避けるための特別外来の新設工事も行われております。今年の冬場のインフルエンザには間に合いませんでしたが、今後の活用が期待されるところです。

あと耳鼻科に関連して残念な報告が一つございます。長きにわたり多くの病院から御紹介いただいておりましたサイバーナイフですが、耐用年数の経過と保守の費用が非常に高価であることを理由に、2018年6月をもって運用中止・廃棄されることとなりました。放射線治療科の荻田先生が復帰されて徐々に御紹介いただく件数も増えていたところでしたが、非常に残念です。(荻田先生自身は引き続き当院におられますので、リニアック照射等でこれまで通り御尽力をお願いする予定です。)

日々の業務におきましてはこれまでと同様に大学病院等の先生方や、近隣の御開業の先生方には御迷惑をおかけすることが多々あるかと思いますが、引き続き今後ともどうか宜しくお願い致します。

鹿児島生協病院便り

積山 幸祐

2017年度も一人体制でマンパワー不足が否めませんでした。幸い大きな問題はなく、何とか外来・病棟診療を行うことができました。2017年の3月と7月に初期研修医2人が、1か月ずつ耳鼻咽喉科研修に参加し、生協病院耳鼻咽喉科に新鮮な風を吹き込んでくれました。指導を通じて、普段何気なく行っている処置や手術を見つめなおすいい機会にもなりました。微力ではありますが、後進の育成にも力を注ぎたいと思います。

また、忙しい日常ではありますが、医師としての力量を高め、電子カルテを上手に活用し、安全で質の高い医療を提供していきたいと考えています。2017年度の手術室での手術症例は156例で昨年度の167例より減少しましたが、鼓室形成術等の時間がかかる手術が増えました。(表)。手術はほとんど待ち期間なく施行できますのでご紹介ください。

2017年度手術症例	人
扁桃摘出術（含む同時施行アデノイド切除、鼓膜チューブ挿入）	42
アデノイド切除（含む同時施行鼓膜チューブ挿入術）	2
いびきに対する軟口蓋手術	1
咽頭腫瘍摘出術（経口法）	4
口唇粘液嚢胞摘出術	1
舌腫瘍摘出術	1
唾石摘出術	1
声帯ポリープ摘出術（喉頭直達鏡下）	4
ポリープ様声帯手術（喉頭直達鏡下）	1
喉頭腫瘍摘出術（喉頭直達鏡下）	2
声帯癌摘出術（喉頭直達鏡下）	2
甲状腺腫瘍切除術	1
耳下腺腫瘍摘出術	2
耳下腺癌切除術	2
舌下腺（がま腫）摘出術	1
気管切開術（外科的）	9
気管切開術（経皮的）	2
頸部腫瘍摘出術	1
リンパ節生検	2
甲状軟骨形成術 I 型、披裂軟骨内転術	1
内視鏡下鼻副鼻腔手術（含む同時施行 鼻中隔矯正術 下鼻甲介手術）	23
内視鏡下鼻中隔手術、内視鏡下下鼻甲介手術	3
術後性上顎嚢胞手術	5

鼻副鼻腔腫瘍摘出術	2
鼻腔腫瘍摘出術	2
鼻出血止血術	1
鼓膜形成術	5
鼓室形成術	12
鼓膜チューブ挿入術	13
急性乳様突起炎手術（耳後部切開排膿+チューブ挿入）	1
先天性耳瘻管摘出術	4
外耳道異物摘出術	1
頬骨上顎骨骨折整復術	1
鼻骨骨折整復術	1
計	156

天辰病院便り

谷 本 洋一郎

天辰病院の谷本です。今年で天辰病院に赴任して丸10年になります。10年と考えると長いような気もしますが、実感としてはそんなに長く勤務してるんだという気持ちです。ただ振り返ってみると職員の中では古い方に入り、診察室で暴れまわっていた子供が久しぶりに受診したかと思うと立派な大人になっていたり、自分が赴任した時に買い替えた医療機器が古くなってまた新しいものと買い替えたりと、ここで一時代を過ごしてることを感じます。

病院としては昨年から開始された地域包括ケア病床もようやく軌道に乗り、外科を中心に大学病院等からの入院の御紹介も増えてきています。耳鼻咽喉科としては、毎年徐々にではありますが外来患者数も増加しており、とくに今年はインフルエンザ患者の増加もあり院内での感染予防、また自分も含めた職員が感染しない様に気を使う毎日です。

あまり大きな変化はありませんが、これもスタッフの皆さんのおかげと感謝しています。一人勤務であり、何かと御迷惑をおかけすることもあると思いますが、引き続き何卒よろしく願い申し上げます。

XI. 関連病院

(平成30年5月現在)

病 院 名	郵便番号	住所 (TEL・FAX)	外来診療曜日	手術曜日
国立病院機構 鹿児島医療センター	892-0853	鹿児島市城山町8-1 TEL:099-223-1151 FAX:099-226-9246	月・水・金 (8:30~11:00)	月・火・水 木・金
国立療養所星塚敬愛園	893-0041	鹿屋市星塚町4204 TEL:0994-49-2500 FAX:0994-49-2542	月・水 (8:30~17:00)	
鹿児島市立病院	890-8760	鹿児島市上荒田37-1 TEL:099-230-7000 FAX:099-230-7070	新患 月・水・金 再診 火・木 (8:30~11:00)	月・水・金
鹿児島生協病院	891-0141	鹿児島市谷山中央 5丁目20-20 TEL:099-267-1455 FAX:099-260-4783	月・火・木・金 (8:30~17:30) 水・土 (8:30~12:30) (新患は30分前まで)	火・水・木 の午前
今村総合病院	890-0064	鹿児島市鴨池新町11-23 TEL:099-251-2221 FAX:099-250-6181	火 (8:30~16:30)	
藤元総合病院	885-0055	都城市早鈴町17-1 TEL:0986-25-1212 FAX:0986-25-8941	月・水・木・金 (9:00~17:00) 火 (9:00~11:00)	火の午後

病 院 名	郵便番号	住所 (TEL・FAX)	外来診療曜日	手術曜日
あまたつクリニック	891-0175	鹿児島市桜ヶ丘4-1-6 TEL:099-264-5553 FAX:099-264-1771	月・火・木・金 (9:00~17:30) 土 (9:00~12:30)	土の午後
垂水中央病院	891-2124	垂水市錦江町1-140 TEL:0994-32-5211 FAX:0994-32-5722	金 (9:00~17:00)	
加治木温泉病院	899-5241	始良市加治木町木田4714 TEL:0995-62-0001 FAX:0995-62-3778	木 (10:00~16:30)	
種子島医療センター	891-3198	西之表市西之表7463 TEL:09972-2-0960 FAX:09972-2-1313	火 (9:00~17:30) 水 夏(14:00~17:00) 冬(14:00~16:20)	
出水郡医師会 広域医療センター	899-1611	阿久根市赤瀬川4513 TEL:0996-73-1331 FAX:0996-73-3708	火・金 (8:30~15:30)	
栗生診療所	891-4409	熊毛郡屋久島町栗生1743 TEL:09974-8-2103 FAX:09974-8-2751	隔週木曜日 (8:00~15:30)	
豊永耳鼻咽喉科医院	868-0037	人吉市南泉田町120 TEL:0996-22-2031	第2, 4土曜日 (9:00~15:00)	

病 院 名	郵便番号	住所 (TEL・FAX)	外来診療曜日	手術曜日
鹿児島厚生連病院	890-0061	鹿児島市天保山町22-25 TEL:099-252-2228 FAX:099-252-2736	水 (14:00~17:00) 木・金 (8:30~17:00) 土 (8:30~11:30)	火
公立種子島病院	891-3701	熊毛郡南種子町 中之上1700-22 TEL:0997-26-1230	隔週木曜日 (8:30~16:00)	

氏 名	在 局 期 間	連 絡 先
1 李 廷権 (韓国, 延世大学)	昭和60年7月1日 ～61年12月25日 平成元年6月26日 ～8月25日	Department of Otolaryngology Severance Hospital College of Medicine Yonsei University C.P.O. BOX 8044, Seoul, 100-680 KOREA TEL 82-2-2228-3605
2 Richard T. Jackson (アメリカ, Emorty 大学)	昭和60年9月6日 ～12月5日	Emory University School of Medicine Center Laboratory of Otolaryngology 441 Woodruff Memorial Building Atlanta, Georgia 30322 U.S.A.
3 関 陽基 (韓国, ソウル大学)	昭和61年1月22日 ～2月21日	Department of Otolaryngology College of Medicine Seoul National University 28 Yoongun-Dong, Chongro - Koo Seoul 110, KOREA
4 Sumet Peeravud (タイ, ソンクラ大学)	昭和62年5月7日 ～7月11日	Department of Otolaryngology Faculty of Medicine, Prince of Songkla University Haadyai, Songkla Thailand
5 Khemchart Tonsakurunguang (タイ, チョラロンコン大学)	昭和62年6月25日 ～63年6月14日	Department of Otolaryngology Faculty of Medicine Chulalongkorn University Bangkok 10500, Thailand
6 金 済霖 (中国, 中国医科大学)	昭和62年8月1日 ～10月29日	中華人民共和国 沈阳市和平区南京街五段三号 中国医科大学附属第一医院 耳鼻咽喉科学教室
7 Phanuvich Pumhirum (タイ, タイ軍医科大学)	昭和63年3月9日 ～3月31日	Department of Otolaryngology Phra Mongkutklao Hospital Bangkok 10400, Thailand
8 Phakdee Sannikorn (タイ, ラジブチ病院)	昭和63年4月5日 ～平成元年6月5日	Department of Otolaryngology Rajvithi Hospital Rajvithi Road, Phayathai, Bangkok 10400 THAILAND TEL 2460052 EXT 520

氏 名	在 局 期 間	連 絡 先
9 Acharee Sorasuchart (タイ, チェンマイ大学)	昭和63年 4月24日 ～ 5月15日	Department of Otolaryngology, Faculty of Medicine, Chiang Mai University Chiang Mai 50002, THAILAND
10 Cheerasook Chongkolwatana (タイ, マヒドール大学)	昭和63年 5月 9日 ～ 9月30日	Department of Otolaryngology Faculty of Medicine Siriraj Hospital Mahidol University Bangkok 7, THAILAND
11 Chul-Hee Lee (韓国, ソウル大学)	昭和63年 7月14日 ～ 8月14日	Department of Otolaryngology College of Medicine, Seoul National University 28 Yeonkun-dong, Chongro-ku, Seoul, 110 KOREA
12 金 春順 (中国, 白求恩医科大学)	平成元年 3月 6日 ～ 4月 5日 平成 2年 4月 1日 ～ 9月30日 (11月14日) 平成 4年10月26日 ～11月 3日	中国吉林省長春市南岭小街吉林工大新村18棟 5 号
13 Surat Mongkolaripong (タイ, ラジブチ病院)	平成元年 3月10日 ～10月31日	Department of Otolaryngology Rajvithi Hospital Rajvithi Road, Phayathai, Bangkok 10400 THAILAND TEL 2460052 EXT 520
14 Pierre-Marie Benezeth (フランス, グルノーブル大学)	平成元年 9月 8日 ～10月17日 平成 3年 4月 7日 ～ 4月 9日	7 Place De La Republique 26000 Valence France TEL 75-43-11-86 FAX 75-55-41-10
15 Preedee Ngaotepprutaram (タイ, マヒドール大学)	平成元年 9月14日 ～ 2年 9月13日	Department of Otolaryngology Prapokkiao Hospital Amphoe Muang, Chanthaburi 22000, THAILAND
16 Myung-Whun Sung (韓国, ソウル大学)	平成 2年 1月20日 ～ 3月19日	Department of Otolaryngology College of Medicine, Seoul National University 28 Yeonkun-dong, Chongro-ku, Seoul, 110 KOREA
17 鄭 勝圭 (韓国, 延世大学)	平成 2年 3月 9日 ～ 3年 4月27日	Department of Otolaryngology Samsung Medical Center 50 Ilwon-dong, Kangnam-ku Seoul, 135-230 KOREA 135-230

XII. 海外同門会名簿

氏 名	在 局 期 間	連 絡 先
18 Markus Rautiainen (フィンランド, クオピオ大学)	平成 2 年12月 7 日 ～ 3 年12月21日 平成 5 年10月12日 ～10月17日	Department of Clinical Sciences(ENT) Tampere University, PL607 SF-33101 Tampere Finland
19 Dacha Noonpradej (タイ, ハジヤイ病院)	平成 3 年 4 月10日 ～ 9 月 7 日	Department of Otolaryngology Haadyai Hospital Haadyai, Songkhla, 90110 Thailand TEL 074-230800-4
20 Chehlah Muhmaddaoh (インドネシア, YARSI 医科 大学)	平成 4 年 5 月17日 ～ 5 年 5 月16日	113/18 Siroros Road T. Seteng A. Muang C. Yala (95000) Thailand FAX 66-073-221665
21 方 深毅 (台湾, 台湾大学)	平成 4 年 7 月 1 日 ～ 9 月26日	Department of Otolaryngology National Cheng Kung University Hospital 138, Sheng hi Road, Tainan 70428 Taiwan, R.O.C. TEL 06-2353535 EXT 2309
22 Ic-Tae Kim (韓国, ソウル大学)	平成 5 年 8 月 3 日 ～ 9 月28日	Department of Oto ; laryngology College of Medicine, Seoul National University 28 Yeonkun-dong, Chongro-ku, Seoul, 110 KOREA
23 Joon-Heon Yoon (韓国, 延世大学)	平成 5 年 6 月 5 日 ～ 6 月 8 日 平成 6 年 1 月18日 ～ 3 月 1 日	Department of Otolaryngology Severance Hospital College of Medicine Yonsei University C.P.O. BOX 8044, Seoul, 100-680 KOREA TEL 82-2-361-5780
24 Prasit Mhakit (タイ, Pramongkutklao 大 学)	平成 6 年 3 月11日 ～ 6 月 4 日	Department of Otolaryngology Pramongkutklao College of Medicine, Thailand TEL 662-246-0066 EXT 3076, 3100
25 呂 宏光 (中国, 大連医科大学)	平成 6 年 4 月 2 日 ～ 4 月19日	中華人民共和国 大連市中山路222號 大連医科大学附属第一病院 耳鼻咽喉科学教室 〒 116011 TEL 3635963-3088
26 王 振 海	平成 5 年 1 月25日 ～平成 9 年 3 月31日	中国医科大学附属第二病院 耳鼻咽喉科

XII. 海外同門会名簿

氏 名	在 局 期 間	連 絡 先
27 Jussi Laranne (フィンランド, タンペレ市)	平成 6 年 4 月 4 日 ～ 7 年 6 月 13 日	SUKKAUAR TAAN KATU 6A8 33100 TAMPERE Finland
28 Sidagis Jorge	平成 6 年 10 月 3 日 ～ 11 年 3 月 31 日	Comp. Hab. Malvin Norte, Calle 122, N° 2152/301, Block 7, Montevideo, CP11400 U URUGUAY (South America)
29 馬 秀 嵐 (中国, 中国医科大学)	平成 8 年 1 月 25 日 ～ 8 年 12 月 30 日	中国瀋陽市和平区南京北155号 中国医科大学第一臨床学院耳鼻咽喉科 〒110001
30 歐 俊 巖	平成13年 3 月 23 日～H13. 9	Department of Otolaryngology National Cheng Kung University Hospital 138, Seng Li Rd., Tainan Taiwan TEL +886-6-2353535 FAX +886-6-2377404
31 孫 東	平成13年 4 月 2 日～H17. 3	114003 中国遼寧省鞍山市鉄来区対炉山新呉衛21-7号
32 王 旭 平	平成20年11月 1 日 ～H21年 2 月 13 日	〒210002 中国江苏省南京市白下区楊公井34棟34号 南京市楊公井病院 耳鼻咽喉科 電話番号：86-25-80864050 (office) 86-25-84542942 (home)

氏 名	最終職別	在 局 期 間
西 宜 行	研 修 生	59. 4-59. 6
河 野 正 樹	研 修 生	60. 4-60. 6 61. 1-61. 3
山 内 慎 介	研 修 生	62. 4-62. 6
四 元 俊 彦	研 修 生	63. 4-63. 6
畑 幸 宏	研 修 生	63.10-63.12
三 角 芳 文	研 修 生	63.10-63.12
吉 満 伸 幸	研 修 生	H2. 7-H2. 9
斧 淵 泰 裕	研 修 生	H2.10-H2.12
宮 原 広 典	研 修 生	H3. 1-H3. 3
黒 木 茂	研 修 生	H5. 7-H5. 9
神 野 公 宏	研 修 生	H5.10-H5.12
藤 郷 秀 樹	研 修 生	H5.10-H5.12
的 場 康 平	研 修 生	H7. 1-H7. 3
伊瀬知 敦	研 修 生	H7.10-H7.12
泊 口 哲 也	研 修 生	H8. 1-H8. 3
島 名 昭 彦	研 修 生	H8. 7-H8. 9
福 田 弘 志	研 修 生	H8.10-H8.12 H9. 4-H9. 6
安 藤 五三生	研 修 生	H9. 1-H9. 3
吉 元 英 之	研 修 生	H10.4-H10.6
肘 黒 公 博	研 修 生	H11.1-H11.3
横 山 孝 二	研 修 生	H11.4-H11.6

氏 名	最終職別	在 局 期 間
田 中 裕 之	研 修 生	H11.7-H11. 9
永 野 広 海	研 修 生	H13.6-H13.12
森 田 喜 紀	研 修 生	H15.1-H15. 3

鹿児島大学大学院耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室 同 門 会 会 則

(総則)

第1条 本会は鹿児島大学大学院耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室同門会と称する。

第2条 本会は鹿児島大学大学院耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室（以下教室と略す）に事務所をおく。

(目的ならびに事業)

第3条 本会の目的は会員相互の親睦を図り、学術研究ならびに社会的発展に資するにある。

第4条 本会は前条の目的を達成するため次の事業を行う。

1. 同門会総会の開催
2. 同門会誌ならびに会員名簿の発行
3. 記念事業の開催
4. その他本会の目的を達成するために必要な事業

(会則)

第5条 本会は会員を次のとおりとする。

教室に在籍又はこれと同等と認められる者。本会の趣旨に賛同し入会を希望して承認された者。

第6条 本会の運営は会費及び寄付金をもって行う。会費は年会費（開業医10,000円、勤務医4,000円）を納めるものとする。特別会員、顧問は会費を免除する。（但し70歳以上）

第7条 会費を滞納した会員は本会より連絡を受けられないことがある。

第8条 会員は希望により退会することができる。

第9条 会員であって本会ならびに教室の名誉を著しく傷つけた場合には役員会の決議を経て会長がこの者を除名することができる。

(役員)

第10条 本会には次の役員をおく。会長1名、副会長、理事、監事、幹事それぞれ若干名。

なお本会に名誉会長ならびに顧問をおくことができる。役員任期は3年とする。

第11条 会長は教室主任教授又は同門会会員から選び、会務を統轄する。

第12条 役員改選時、(旧)役員会は(新)会長候補を決定し、総会での承認を経て

新会長が選出される

- 第13条 副会長は会員の中から会長がこれを委嘱し、会長を補佐する。
- 第14条 理事は会員の中から会長がこれを委嘱し、会務を審議する。
- 第15条 監事は役員会においてこれを選出し、会長がこれを委嘱する。
監事は会計を監査する。
- 第16条 幹事は会員の中から会長がこれを委嘱し、会務処理に当たるものとする。
- 第17条 名誉会長ならびに顧問は会員の総意に基づき推挙されるものとする。
(会議)
- 第18条 総会は年1回開催する。必要があれば会長は臨時総会を招集し得る。
総会における決議は出席会員の過半数をもってする。
- 第19条 役員会は会長が招集し、事業計画、経理その他重要な事項を審議する。
(会則の変更)
- 第20条 本会の会則は総会の承認を得て、変更することができる。
(本会則は平成22年1月17日より施行する。)

●●●●●●●●●● 編 集 後 記 ●●●●●●●●●●

読書をすることの楽しみのひとつに言葉との出会いがあります。「読書は充実した人間をつくり、会話は機転のきく人間をつくり、書くことは正確な人間をつくる」16～17世紀に活躍したイギリスの哲学者フランシスベーコンの言葉です。「知識は力なり」の名言でご存知の方も多いかと思います。ものを書くことを疎んじると、知識も記憶も不正確になりがちです。書くことで自身の臨床経験を増幅するとともに、自身の臨床行為を自戒することができるのだと思います。書くことで不断に自分自身をチェックしていこうと思わされる言葉との出会いでした。一方で、よき言葉に出会っても、それを実践し、体得しないことには出会いを有意義なものにできないことも事実です。「古の道を聞かなくても唱へてもわが行にせずばかひなし」鹿児島育ちの方なら馴染みのある日新公と島津忠良公のいろはかるたの冒頭をかざる歌です。出会いを意義深い実りあるものにするためには、それ相応の行動と努力が必要なのだと思います。

さて、今年の4月から松崎尚寛先生が当教室に仲間として加わり、新緑の香りとともに教室に新たな息吹をもたらしてくれました。この出会いに感謝するとともに、教室の皆がこの出会いをよりよい出会いへと育て上げられることを切に望みます。また、同門会および地方部会の先生方にとりましても、素晴らしい出会いとなることを祈念いたします。

(文責：川島雅樹)

編集長 (医局長) 川島雅樹

編集委員 久徳貴之

井内寛之

大夫堀昌子

さくらじま 第32号

平成30年6月26日 印刷

平成30年7月3日 発行

発 行 鹿 児 島 大 学 大 学 院

耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室

電話 (099) 275-5410

印 刷 斯 文 堂 株 式 会 社

電話 (099) 268-8211